

蟹江町歴史民俗資料館 おうちミュージアム

かにえまつり
第22回 蟹江祭の歴史(答えと解説)



(1936年(昭和11年)の蟹江祭)

今回のおうちミュージアムでは、かにえまつり蟹江祭の歴史についてしょうかい紹介します。

この写真は1936年(昭和11年)の蟹江祭の様子です。今の蟹江祭と比べると、人も多くはな華やかに行われていました。

かにえまつり
① 蟹江祭は、いつから行われていたでしょう
か？

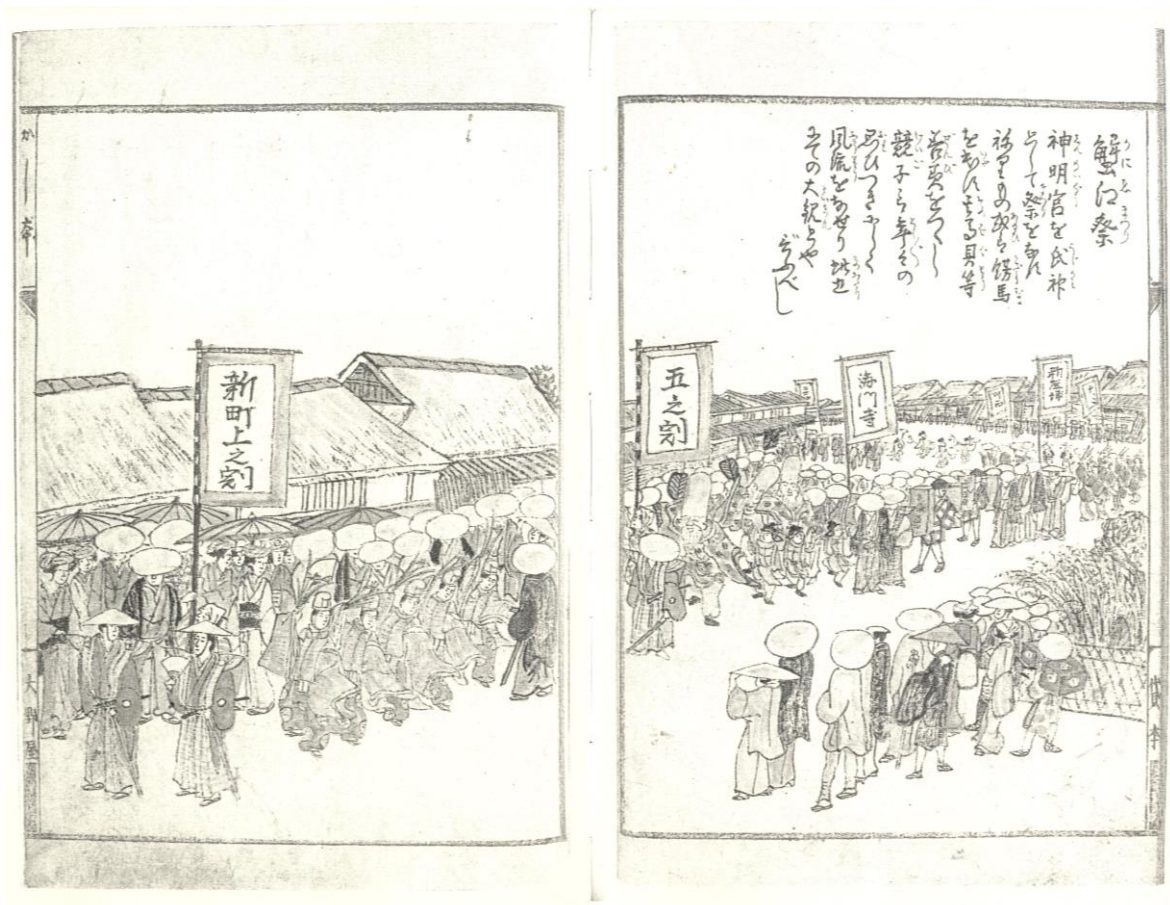
ア 江戸時代

イ 明治時代

ウ 昭和時代

答えは、「ア」江戸時代です。

かにえまつり
蟹江祭の歴史は古く、江戸時代までさかのぼります。そのなかでも有名なエピソードが、^{おわりはん}尾張藩6代目の^{とのさま}殿様であった^{とくがわつぐとも}徳川^{まね}継友に招かれて、^{なごやじょう}名古屋城のそばで蟹江祭を^{ひろう}披露したことです。およそ2000人が^{さんか}参加したとされ、蟹江祭の^{はな}華やかな^{ぎょうれつ}行列を見た^{よろこ}継友は、とても喜んだと伝えられています。



江戸時代の蟹江祭(『尾張年中行事絵抄』より)

かにえまつり
② 蟹江祭では、祭りの中で行われるあることが有名でした。それはなんですか？

ア 道行踊 みちゆきおどり

イ 道行歌舞伎 みちゆき か ぶ き

ウ 道行萬歳 みちゆきまんざい

答えは、「ア」道行踊です。

昔は祭りの余興として各町内で「道行踊」が行われ、演技や豪華さを競い合っていました。演じるテーマは「牛若丸と弁慶」、「忠臣蔵」、「宮本武蔵」など、昔話やお芝居の1シーンが多かったようです。また青年団の人たちを中心に演じられていたことから、蟹江祭は若者の祭りであったともいわれています。

しかし、時代の変化とともに少しずつ演じる人が減り、今では一部の町内を除いて行われなくなりました。



昔の蟹江祭で演じられた道行踊

③ ^{かにえまつり}蟹江祭が行われる^{かにえしんめいしゃ}蟹江神明社には、ある^{どうぶつ}動物
の^{ぞう}像があります。なんの動物でしょうか？

ア 牛

イ 馬

ウ うさぎ

答えは、「イ」馬です。

^{かにえしんめいしゃ}蟹江神明社には、馬の^{ぞう}像があります。^{かにえまつり}蟹江祭などの^{あいちけん}愛知県のお祭りでは、馬をきれいに清めてから全身をきれいに着飾った「^{きかざ}飾馬(馬の塔)」が神社に奉納されました。^{かざりうま}飾馬が奉納されるのは神社の建物を新しくしたときなどの特別な年でした。しかし、1988年(昭和 63 年)を^{さいご}最後に、^{きかざ}飾馬を出すことはなくなりました。

^{蟹江町歴史民俗資料館}には、かつて^{ごのちよう}五之町と^{しんやしき}新屋敷で使われていた^{ばぐ}馬具(飾馬に使った道具)が^{てんじ}展示してあります。^{きようみ}興味をもった方は、ぜひ見学に来てください。
(^{とくべつてん}特別展の^{きかんちゆう}期間中など、^{らん}ご覧いただけない場合もあります。)



蟹江神明社の馬の像



昔の蟹江祭の飾馬



蟹江町歴史民俗資料に展示
されている馬具

ほんかくてき よきょう ようす ごうしゃしんめいしゃしょうかくきねんちょう
 昔の本格的な祭りの余興(出し物)の様子(「郷社神明社昇格記念帖」1925年(大正14年)より)

